



金属器保存処理実習

掘現場で保存科学の知識を活かしたいという方もおり、立場はそれぞれ違っていました。今回の研修を受けることで、保存処理のマニュアル作り、外注に際して留意しなければならないこと、遺物の取り扱いなど多くの点で認識を新たにできたとの感想が寄せられました。研修生の皆さんがこの研修の成果を埋蔵文化財の保存に活用されることを期待しています。



脆弱遺物の取り上げ実習

発掘技術者専門研修「遺物撮影課程」

今年度は「遺物撮影課程」を、4月17日から24日までの短期で実施しました。応募は思いのほか多く、募集定員を遥かに超える盛況ぶりで、最終的には20名を対象としました。

この研修は、8月から9月に実施する「文化財写真課程」の期間が長過ぎて、参加したくても難しいという自治体や機関の意見に答えようというのが第一の目的でした。また昨今の発掘調査における記録の方法や報告書編集の意識を見ていると決して最良とは言いがたく、写真を通して「文化財における記録とは」ということをもう一度見つめ直す必要があり、そのためにもより多くの調査員や学芸員の方々と意見交換の機会が欲しいという思いもありまし

た。さらに、すでに文化財写真課程を受講した方々から、基礎編だけではなく応用編の機会も欲しい、という意見があり、これに対処することもひとつの目的でした。

この課程は初めて実施するというのもあって、応募者の写真技術はどの程度なのか、また考え方や意識はどうか、といろいろと不安でした。心配はほぼ適中し、文化財写真課程と同様に基礎編から始めなくては何も通じないのです。しかも文化財写真精神論からでなくては。また、写真記録法に関しても問題点が多々ありました。特に、写真の評価をしようとしなから良否の判定ができないのです。急遽2日目から応用組（3名）と基礎組（17名）とに分けて研修を実施することにしました。

結果として、我々の感想は「期間が足らん」であり、研修生は「短い」でありました。しかしたとえ短い期間であっても実施してかなりの手応えがありました。きっと研修生も「よかった」と感じてくださったことでしょう。（埋蔵文化財センター）

▲ 春期特別展示『あすか以前』

飛鳥資料館では、毎年、春と秋の2回にわたって特別展示をおこなっています。今年度、春の特別展示は、明日香村教育委員会、桜井市教育委員会、奈良教育大学の協力を得て、飛鳥地域の飛鳥時代以前の出土遺物を中心に「あすか以前」と題して、2002年4月23日～6月2日の会期で開催しました。また、この展覧会に伴い、平城宮跡発掘調査部の深澤芳樹による特別講演会「弥生時代の集落、森のムラ」を5月11日に当館の講堂にて開催しました。講演会は、多くの方にご来場いただき、大変盛況なものとなりました。

飛鳥地域は古墳時代の終末期から、ようやく成立しようとする日本という国の最初の首都として、日本史上に特別な意味を持つこととなります。『日本書紀』に書きとどめられた古代の都としての「飛鳥」と、都にかかわるさまざまな遺跡は、広く世に知られ注目を集めていますが、それ以前のこの土地の歴史については、あまり話題に取り上げられることもないというのが現状です。

今回の展示は、日本史の表舞台に登場する以前の、この地域の歴史的な変遷をたどり、縄文・弥生・古